



Title	日本語とアラビア語の空間表現について
Author(s)	エベード, イハーフ アハマド
Citation	大阪大学言語文化学. 2004, 13, p. 5-19
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77925
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

日本語とアラビア語の空間表現について*

イハープ・アハマド・エベード**

キーワード：前置詞、相対場所名詞、場所性

The Arabic language is spoken in twenty-two countries, and one of the official languages of the United Nations. However it does not seem a familiar language in Japan. Also, the research of the Arabic language from the Japanese-Arabic contrastive point of view has not yet advanced enough. There are still only a few Arabic grammar books written in Japanese, and sometimes Arabic native speakers find some problematic descriptions in those grammar books. One of those problematic descriptions is about the spatial expressions in Arabic. For me as a researcher interested in these two languages it is a disappointing fact but at the same time has offered me the starting point of this research.

There are some descriptions about spatial expressions in these grammar books that Arabic natives cannot accept. Their argument is completely different from that seen in the traditional Arabic grammar. Some of those books treat these expressions as prepositions, while the others as prepositions derived from nouns. However, in the traditional Arabic grammar they have been analyzed as nouns. Supporting this traditional view I will argue that the behavior of these expressions parallel the behavior of so-called “relative locative nouns” (Okutsu 1974) in Japanese.

The purpose of this thesis is to describe the difference between the spatial expressions in Arabic and those in Japanese. And I am going to discuss both the similarity and the difference between these two languages based on as many examples as possible. At the same time I am going to refer to Takubo's (1984) interesting argument about locative nature of a certain class of Japanese nouns, and I am going to find out whether it is

* On Spatial Expressions in Japanese and Arabic (Ehab Ahmad EBEID)

** 大阪大学大学院言語文化研究科博士後期満期退学 (研究生)

possible or not to apply his five standards to judge if various nouns have locative nature or not.

Every language has spatial expressions but the form and structure vary from language to language. This difference depends on the native speakers' recognition of the world.

In this kind of contrastive linguistic researches it is preferred to find out the mechanism behind these linguistic facts and systematize them. But I am going to concentrate on the observation and description of the linguistic facts found in Arabic and Japanese, and add a bit of insight into the mechanism itself that I have got so far, leaving the intricate theoretical issues open to further research.

1. はじめに

アラビア語は、20ヶ国あまりで公用語として使われており、国連の公用語の一つでもある。しかし、日本では、アラビア語の教育や研究が進んでいるとは言えないのが現状である。日本語で書かれたアラビア語の文法書の数はまだ少なく、内容的にも問題が多く残されている。そのひとつに、場所表現に関する記述に、実際の言語事実とは明らかに合致しない点が見られることが挙げられる。そこで、本論では、日本語で書かれたアラビア語文法書のなかで、特に場所表現に関する記述に注目し、その問題点を明らかにし、より柔軟で包括的な記述のあり方について考察していく。

2. 本研究の問題と目的

本研究はアラビア語、日本語の両言語における場所表現に改めて注目し、両言語の共通点、相違点を浮き彫りにすることが目的である。その際には、現代日本語の「場所」を表わす名詞類について豊富なデータに基づき、興味深い議論を展開している田窪(1984)のアプローチを参考にする。具体的にはそこで指摘された「場所性」を含むか否かを判断するための5つの基準がアラビア語にも適用可能かを考察していく。

数少ない日本語で書かれたアラビア語の文法書では、場所表現について次のような記述が見られる。

W. Wright (1859 : p.281) によれば「'inda,」, 「taḥta」, 「fawqa」などの語は明らかに実名詞であるが、場所の対格として使用されている。多くの語は、ある意味において便宜的に前置詞のうちに数えられる。

- (1) 'inda al-bayti (その家に、その家の側に)
DET-house(GEN)
- (2) taḥta al-'arḍi (地下に)
under DET-ground
- (3) fawqa al-jabali (その山の上に)
above DET-mountain(GEN)

池田 (1976 : p.43) では、上記の「'inda」「taḥta」「fawqa」などは、場所や時を示す名詞の対格が転じて前置詞となったものであるが、この種の前置詞は、他の本来からの前置詞に支配されて用いられることもあるとされている。

飯森、黒柳 (1976 : p.152) の記述では、アラビア語の前置詞は、

1. 非分離前置詞
2. 独立前置詞
3. 名詞派生前置詞 (常に対格)

という3種からなる。名詞派生前置詞には「'amāma」「fawqa」「'inda」などが含まれる。

しかし、これらの主張は、アラビア語の伝統文法で示されてきた見解と明らかに異なる。これらの文法書で「前置詞」、あるいは「名詞から派生した前置詞」等と捉えられている場所表現は、アラビア語の伝統文法によれば、前置詞ではなくむしろ名詞として分類されてきたものである(本研究もこの伝統的見解に従う)。この点で、現在の日本語で書かれたアラビア語文法書の記述には不自然で、両言語の正確な把握の上に立ったものとは思われないところがあるように見える。

3. 名詞としての「'inda」、「fawqa」等

本節では、「'inda」、「fawqa」等の表現が日本語で書かれた文法書の記述にあるように前置詞なのではなく、むしろ名詞として分析されるべきであるという本研究の主張を(1)他の前置詞との共起関係、(2)属格支配という2点をもって論証する。

3. 1 根拠Ⅰ：前置詞との共起関係

次の例が示すように、アラビア語で本来、前置詞に前置詞が後続することは不可能である：

- (4) *'ilā 'alā al-maktabi
(P)to (P)on DETdesk(GEN)

このように、本来はアラビア語では前置詞の後に前置詞が現れることができないのに対して、「fawqa」「'amāma」などの語は前置詞の後に現れ得ることが、本論での名詞分析の第1の証拠になると思われる。すなわち、前置詞の「'alā」は、前置詞の「'ilā」の後に現れることができないのに対して、次のような例は多く見られる：

- (5) min 'indi al-bābi
from at DETdoor(GEN)
その扉のところから
- (6) waḡa'a al-kurata fī wasṭi al-mal'abi
put 3 ms. DETball (P)in center(GEN) DETplayground(GEN)
彼は運動場の真ん中にボールを置いた

このように、ここで問題にしている「fawqa」等の表現は前置詞に後続することができる。

3. 2 根拠II：属格支配

アラビア語の前置詞は本来、語尾変化しない品詞である。しかし、ここで問題の「'inda」「fawqa」などの語は、次の例のように、前置詞による属格支配を受ける語尾変化を見せる：

- (7) min 'indi al-bābi (本来→ 'inda al-bābi)
from (GEN) DETdoor(GEN) DETdoor(GEN)
その扉のところから
- (8) fī 'asfali al-saqfi 'uṣṣun (本来→ 'asfala al-saqfi)
(P)in below(GEN) DETroof nest below(GEN) DETroof
屋根の下に(鳥の)巣がある

ここでは、「'inda」と「fawqa」が前置詞の後に現れており、その形態から明らかに前置詞「min」により属格支配されていることがわかる。もしもこれらが前置詞であれば、語尾変化を受けず、その他の前置詞の後に現れることもあり得ない。したがって、今問題にしているこれらの語は前置詞ではなく、名詞と考えるべきであり、より正確に言えば相対名詞(c.f.奥津 1974)とするのが適切であると思われる。

4. 日本語の相対場所名詞についての先行研究

前節では、「'inda」、「fawqa」等の表現は前置詞ではなく、名詞であると思われることを示したが、ここではこれらの名詞が、正確には日本語における相対場所名詞に相当するものとして捉え得ることを示す。まず、議論に先だって、日本語、アラビア語におけるこれらの場所名詞をめぐる従来どのような議論がなされてきたのか、その代表的な先行研究を概観しておきたい。

4. 1 日本語の場所表現の基本構造：山田（1981）

日本語において「木の前」「木の上」「木のそば」などの表現に使われている「前」「上」「そば」は、場所を示す語である。場所を表すといってもこれらは「東京、部屋」などと異なり、それだけで何か特定の場所を示すことはない。すなわち、単に「前」とか「上」という場所はないのであり、必ず「何か（どこか）の前」であり、「何か（どこか）の上」といった相対的なものである。

日本語の場所表現には、「東京に」「部屋で」のように、単独で場所を表す名詞に機能語が付属するものと、「東京の中で」「部屋の外に」のようにさらに相対名詞が付属するものと2種類ある。どちらにしても、機能語が付属するのは「場所を表わす名詞（句）」であることに変わりはない。そして、これに付属する機能語は、「に」「で」「へ」「から」「まで」「を」の6つである。

そして、日本語の場所表現の構造は一般に

NP+（相対場所名詞）+格助詞

という形で示される（相対場所名詞は現れたり現われなかったりする）。構成要素間の共起関係を具体的に示すと次のようになる。

		ところ	で	
		そと	に	
NP	の	なか	を	
		した	から	
		etc.	へ	
			まで	（山田 1981）

4. 2 場所名詞：田窪（1984）

田窪（1984）は日本語において名詞それ自体が「場所性」を持っているか否かを判定するテストとして、次の5つの基準を挙げている。

I. 「のところ」が付くか付かないか。

- (9) a. 机、本、石、ドア、窓、私、田中さん+のところ
- b. *東京、保健所、山、部屋、便所 +のところ

II. 場所の状況語句を作る。「NP で」の NP の位置に現われる。

- (10) a. 公園で大きな鳥を見た。
- b. ?机で大きなゴキブリをみた。

III. 存在を表わす文において「位置」を示す「NP に」の NP の位置に現われる。

- (11) この山には木がたくさんある。

IV. 疑問詞「どこ」で聞ける。(=答えとなり得る)「ここ、そこ、あそこ」で示せる。

- (12) a. 「日本の首都はどこですか。」 「東京です。」
- b. 「どこに行くの。」 *「田中さんに行きます。」「学校に行きます。」

V. 移動を表わす動詞の goal, source に現われる。

- (13) a. 東京に着いた。
- b. *ドアに着いた。

この基準によって場所名詞と認定されたものは、さらに、以下のように相対名詞のグループとそれ以外の名詞のグループに分かれる。

- (14) a. 相対名詞：「後」、「前」、「左」、「右」
- b. その他：「学校」、「山」、「家」、「デパート」

ただし、「学校」、「大学」などの名詞は文脈によって「もの」として捉えられる場合もある：

- (15) 「ここで何を建てているのですか？」 「学校／大学です。」

つまり、これらの名詞は「もの」としての性格をもっている。「場所性」は「もの性」と共存し得るわけである。

4. 3 場所名詞：奥津（1974）

奥津（1974）は「下」、「前」、「隣り」などの二次元、三次元における位置関係をあらわす語を相対名詞と呼んでいる。これは、それらの名詞が絶対的な位置をあらわすのではなく、それらが付く名詞を基準とする相対的位置を意味するからである。これらには三つの特徴が見られる。

I. 基準となる名詞をとって初めて指示対象をもつ。基準となる名詞は文脈上省略されてもよいが、なにも基準が与えられなければ、これらの名詞は何を（あるいは「どこ」を）指し示すか決められない。

II. 基準とされる名詞は相対名詞の補語となり、相対名詞が名詞全体となる。

したがって、相対名詞が主要部となる名詞句が全体として「場所」という特徴をもつことは、基準となる名詞とは関係ない。

III. 基準点からの隔たりを示す数量詞句をとる。

(16) 山田のすぐそばに奥さんが立っていた。

相対名詞は上のような性質をもっているが、相対名詞のうちでも、基準点からのある方向への隔たりをあらわすものとそうでないものとは多少異なる。

5. アラビア語の場所表現の分析

では、次にアラビア語の場所表現が具体的にどのような文法構造をもち、意味的にはどのようなはたらきを果たしているのかについて整理していきたい。

5. 1 アラビア語の場所表現の基本構造

アラビア語の場所表現の構造には以下のように3通りの型がある。

(17) a. 前置詞＋NP

b. 相対場所名詞＋NP

c. 前置詞＋相対場所名詞＋NP

まず、aの前置詞＋NPの構造を見る。

前置詞はアラビア語母語話者によって引きずりの不変化詞（辞詞）、すなわち、属格名

詞をあとに伴う不変化詞と名付けられている。これには、あとに伴う名詞とは切り離して書かれるものと、常に、その名詞と合体して書かれるものの2種類に分けられる。日本語における場所表現に相当するアラビア語の前置詞には、「min」、「an」、「fi」、「ilā」、「alā」などがあり、一般的な意味は以下のとおりである。

- | | | |
|------|------|---------------------|
| (18) | min | ～から (出発点) |
| | 'an | ～を (離脱) |
| | fi | ～に／で (場所) |
| | 'ilā | ～へ (到着店／方向) |
| | 'alā | ～の上 (物理的、心理的な広がりの上) |

次にbに挙げた(相対)場所名詞+NPの構造を見る。

本来は、この種の名詞は場所的關係 (local relation) を表わすものであるが、その場所的關係の表象から示唆される時間的關係 (temporal relation)、さらに、観念的關係 (ideal relation) にまで意味が転用される。ここで注目したいのは、相対の「zurūf」¹⁾ がまさに日本語における相対場所名詞に対応するものであると思われる点である。

- (15) hādā min 'indi allāhi
 this (P)from God(GEN)
 これは神 (のところ) からきているものである

次に、これらの「zurūf」の用法を観察、整理していく。

5. 2 「場所性」についてのテスト

田窪 (1984) が挙げた、日本語における名詞自体が「場所性」を持っているか否かを判断するテストとして5つの基準をみたが、果たしてこれらがアラビア語に当てはまるか否か検証していきたい。

5. 2. 1 「ところ」が付くか付かないか

日本語において「東京」「山」「学校」などの名詞はそれだけで場所性を持っているわけであるから、「ところ」をつけずに、そのまま使える。しかし、「机」「ドア」「田中さ

¹⁾ アラビア語の伝統文法によればzarfまたは、zurūf (circumstances) と呼ばれるものであり、これには、zarf makān (local circumstances) と zarf zamān (temporal circumstances) がある。A. Ḥasan (1960)、Sh. Ḍeef (1990) によれば、zarf makān (local circumstances) には masjīd (モスク)、bayt (家) などのような目に見える決まった形のある場所名詞 maḥdūd (特定) とそれだけでは、特定の場所を表すことができない mubham (漠然) の二種類がある。

ん」などの名詞は場所性を持たないから、「のところ」がつくことによって場所性を持つようになる。確かにアラビア語でも、「ドア」とか「ムハンマドさん」などの語は場所として使う場合、「inda」がつく。

- (20) al-qittatu 'inda al-bābi / *al-qittatu al-bābi
 DETcat DETdoor(GEN) DETcat DETdoor
 猫はドアのところにいる
- (21) zawjat-ī 'inda 'ummi-hā / *zawjat-ī 'ummi-hā
 wife-my mother-her wife-my mother-her
 妻は彼女の母のところにいる
- (22) *Muḥammad 'inda al-qāhirati / *Muḥammad al-qāhirati
 Cairo Cairo
 *カイロのところに

この例文で明らかのように「ドア」「母」という名詞は場所性を持っていないから「inda」は義務的に現れるが、「カイロ」のような場所名詞に「inda」をつけると不自然な文となる。

5. 2. 2 場所の状況語句を作る「NPで」のNPの位置に現れる

- (23) ra'aytu ṣurṣūran fī al-ḥadiqati
 sawls. cockroach (P)in DETpark(GEN)
 私は公園でゴキブリを見た
- (24) *ra'aytu ṣurṣūran fī al-maktabi
 sawls. cockroach (P)in DETdesk(GEN)
 *机でゴキブリを見た

ここではアラビア語でも日本語でも「ゴキブリ」が見られた公園などのような名詞は場所名詞として使われ、「机」のような場所性を持っていない名詞は相対場所名詞を付加しないと不自然な文となる。

5. 2. 3 存在を表す文において「位置」を示す「NPに」のNPの位置に現れる

- (25) fī al-jabali 'ašjārun kaṭīratun
 (P)in DET-mountain trees many
 その山に木がたくさんある

- (26) *fi al-maktabi kutubun kaṭīratun

(P)in DET-desk books many

*机に本がたくさんある

ここもアラビア語では「机」という名詞は場所性を持たないから本が存在する場所名詞とならない。以上、田窪(1984)の基準にアラビア語を合わせてみたところ、ある程度は合致した。しかし、日本語とアラビア語とのずれが観察される。

5. 2. 4 疑問詞「どこ」で聞ける

日本語における場所を尋ねる「どこ」に当たるのはアラビア語の「'ayna」である。日本語では「どこ」で聞ける名詞は場所名詞であるが、アラビア語では「man」(誰)、「mā」(何)を使う。

- (27) 'ayna Tarou?

where

太郎はどこですか。

- (28) Tarou fi al-ḥujrati

(P)in DETroom(GEN)

太郎は部屋にいる。

- (29) Tarou 'inda al-bābi

DETdoor(GEN)

太郎はドアのところにいる。

- (30) あの木村拓哉、どこがいいの?

mā al-jamīlu fi-hi Kimura Takuya hādā

what DETbeautiful (P)in-him this

- (31) 日本の首都はどこですか。

mā 'aṣīmatu al-yābāni?

what capital Japan

- (32) 今日の試合はどことどこですか。

mubārātu al-yawmi bayna man wa man?

match DETtoday between who and who?

ここでは日本語の「どこ」にアラビア語の「man」(誰)、「ma」(何)が対応している。

5. 2. 5 移動を表す動詞の goal, source に現れる

- (33) al-qiṭāru waṣala 'ilā al-maḥaṭṭati
DETtrain arrived (P)to DETstation(GEN)

電車は駅に着いた

しかし、次のように「ドア」という名詞が場所名詞として使われている場合がある。

- (34) Muḥammadun ḡahaba 'ilā al-bābi
went3ms. (P)to DETdoor(GEN)

*ムハンマドはドアに行った。

5. 3 相対名詞としての「'inda」、「fawqa」等

これまで見てきた日本語、アラビア語にみられる空間表現を概観してきた。特に、アラビア語における空間表現の中で「'amāma」「fawqa」「warā'a」と名詞が結び付いた構造(NP+相対場所名詞)は、奥津が言う相対場所名詞に相当すると思われることに注目したが、これらのアラビア語における「'amāma」「'inda」「fawqa」などの相対場所名詞場は既に内包的に「fi」という意味を含んでいるから、日本語の場所表現の構造は、アラビア語の場所表現の構造と異なるわけである。既に見てきたように、アラビア語の「'amāma」「'inda」「fawqa」等は名詞的であり、これに対応するのが日本語の「相対場所名詞」である。一方、「fi」「min」「an」「'ilā」等は、「名詞性」は持たない。このことから「fi」「min」「an」「'ilā」が占める意味領域と「に」「で」「を」が占めている意味領域とほぼ重なりあう。同じく、「'amāma」「taḥta」「fawqa」が占める意味領域と「前」「後ろ」「上」が占める意味領域とほぼ重なるという予測を立てることができる。ここで、奥津の指摘している相対場所名詞の三つの特徴に照らし、この予測の妥当性を検証する。

(I) 基準となる名詞をとって初めて指示対象をもつ。

これは丁度(Sh. Deef 1990)が言う *zarf mubham* (漠然) にぴったり照合する。つまり、アラビア語の「'amāma」「xalfa」「fawqa」等の名詞はそれだけで特定の場所を表すことができない。また単に「xalfa」「'amāma」と言うだけでは、何らかの場所を示したことにはならない。常に何らかの対象を必要とし、どこかの後ろとか前というふうになる。

(II) 基準とされる名詞は相対名詞の補語となり、相対名詞が名詞全体となる。

相対名詞が主要部となる名詞が全体として「場所」という特徴をもつことは、基準となる名詞とは関係ない。

このこともアラビア語の場所名詞にも言える。つまり、「'amāma」「xalfa」「fawqa」などが付く名詞は必ずしも場所性を持つ名詞であると限らない。

- (35) jalastu 'amāma Aḥmada
sat downls. front
私はアフマドさんの前に座った

- (36) waqaftu xalfa-hu
stood upls. behind-his
私は彼の後ろに立った

(Ⅳ) 基準点からの隔たりを示す数量詞句をとる。

相対名詞は奥津によれば上のような性質をもっているが、相対名詞のうちでも、基準点からのある方向へのへだたりをあらわすものとそうでないものとは多少異なる。

- (37) min hunā mi'ata mitran ġarban ḥadiqatun
(P)from here one hundred meter west park
ここから 100 m. 西に公園がある

5. 4 日本語とアラビア語の相違

日本語とアラビア語の「相対場所名詞」を含む表現が平行することを見てきたが、ここで、もう一度見ておきたいのが「'inda」のふるまいである。「'inda」は次のような点で日本語とは一部対応しないところがある。次の例は各々、「物理的位置」(38)～(41)、「所有」(42)～(47)をあらわすものである。

物理的位

- (38) a. あの本は私のところにある
b. dālika al-kitābu 'ind-ī
that DETbook -me
- (39) a. *私のところに牛がある
b. 'ind-ī baqaratun
-me cow
- (40) a. 妻は彼女の母のところにいる
b. zawjat-ī 'inda 'ummi-hā
wife-my mother (GEN) -her

(41) a. 私のところに牛がいる

b. tūjadu baqaratun 'ind-ī
there is cow -me

所有

(42) a. 私には子供が二人ある

b. 'ind-ī ṭiflāni
-me two children

(43) a. *私に牛がある

b. 'ind-ī baqaratun
-me cow

(44) a. 私にお金がある

b. 'ind-ī mālun
-me money

(45) a. わたしには妻がある

b. *'ind-ī zawjatun
-me wife

(46) a. 選択権は私にある

b. 'ind-ī ḥaqqu al-ixtiyāri
-me right DET-choosing

(47) a. 私にはアイデアがある

b. 'ind-ī fikratun
-me idea

このように、抽象的位置、物理的位置、所有を表す場合、日本語では「のところ」を使わないのに対して、アラビア語では「'inda」を使わなければならない。また、物理的位置を表す場合これも「'inda」を使う必要がある。しかし、(41) b では逆に日本語では「のところ」を使わないとならないのに対して、アラビア語で「'inda」だけでは使えず、tūjadu (いる、ある) という動詞を使わなければならない。もし「'inda」だけを使うとしたら、その場合、物理的位置ではなく、所有という意味になり、物理的位置として使おうとする場合、具体的にその位置を述べる必要がある。

さらに、「'inda」には先に見たような local → temporal → ideal への意味拡張が見られるが、この点も日本語と必ずしも対応しない。

- (48) ḥaḍara ‘inda ṭulū‘i al-šamsi
 came 3ms. rising (GEN) DETsun (GEN)
 彼は太陽の上昇（日の出）の刻限にやってきた。
- (49) qāla ‘inda mawti-hi
 said 3ms. death (GEN)-his
 彼は（彼の）死に際して言った。
- (50) ‘inda-ki ḥaqqun
 -you2fs. right
 貴女は正しい。

このような拡張はアラビア語には広く一般に観察されるものであり、日本語にも一部、「まえ」などに見られる：

- (51) 日本に来る前に、日本語を勉強した。
 (52) 彼に授業の前に会った。

この意味拡張の問題は非常に興味深く、今後さらに考察していきたい。

6. おわりに

筆者が挙げた二つの根拠によって「amāma」、「fawqa」、「inda」などの語は前置詞ではなく、名詞であることがわかった。さらにその働きは基本的に日本語のいわゆる相対場所名詞に相当することも明らかにした。ただし、日本語とアラビア語との間で詳しい対照分析を行うと、相対場所名詞のあらわれ方に両言語の間で相違があきらかになった。例えば、所有者を表す表現において日本語は「ところ」が現れないのに対し、逆にアラビア語の「inda」は義務的に現れる。また「行く」などのゴールを表す表現のなかで、日本語では「もの」名詞を場所名詞化するために「ところ」を補う必要があるが、アラビア語では、「inda」は必ずしも必要ではない。

このような比較対照研究では、最終的には、観察された種々の言語事実を簡潔に捉える形式化が望まれるが、本研究はあくまでもその基礎づくりにあたる事実関係の整理にスポットを当てた。

本研究が、まだ十分に研究が進んでいないと思われる日本語アラビア語対照研究という分野への一貢献となることを希望する。また将来的には、本研究の観察、分析を基礎として、アラビア語話者の日本語教育へどのような形で応用することが可能かについても考察していきたい。

参考文献

- Aḥmad Sulaymān Yāqūt (1992) *Fī 'ilm al-luġah al-taqābulī*. Dār al-ma'rifah al-jāmi'iyyah. Cairo.
- al-Murādi (1992) *al-Janā al-dānī fī ḥurūf al-ma'ānī*. Dār al-kutub al-'ilmiyyah. Beyrouth.
- al-Shamsān (1987) *Ḥurūf al-jarri dīlālātu-hā wa 'ilāqatu-hā*. Dār al-madani. Jeddah.
- Bohas G., J.-P. Guillaume, and D.E. Kouloughli (1990) *The Arabic Linguistic Tradition*. Routledge.
- A. Ḥasan (1960) *Al-naḥw al-wāfi*. Dār al-ma'ārif. Cairo.
- Jackendoff, R. (1983) *Semantics and Cognition*. MIT Press.
- Muḥammad 'Id (1994) *Al-naḥw al-musaaffa*. Maktabat al-shabāb. Cairo.
- Shawqy Ḍeef (1990) *Tajdīd an-naḥw*. Dar al-ma'ārif. Cairo.
- Ueno, Seiji (1994) *Conceptual Structures and the Semantics of Spatial Expressions in Japanese*. (大阪大学大学院言語文化研究科修士論文)
- W. Wright (1859) *A Grammar of Arabic Language*. Third Edition Cambridge University Press.
- 池田修 (1976) 『アラビア語入門』 岩波書店
- 石綿敏雄、高田誠 (1993) 『対照言語学』 桜楓社
- 奥津敬一郎 (1974) 『生成日本文法論』 大修館
- 黒柳恒男、飯森嘉助 (1976) 『アラビア語入門』 泰流社
- 後藤三男訳 (1987) W. Wright 『アラビア語文典』 (上、下巻) ごとう書房
- 田窪行則 (1984) 「現代日本語の「場所」を表わす名詞類について」『日本語日本文化』第12号 大阪外国語大学研究留学生別科
- 田中四郎 (1973) 『実用アラビア語会話』 大学書林
- 寺村秀夫 (1968) 「日本語名詞の下位分類」『日本語教育』12号
- 寺村秀夫 (1982) 『日本語のシンタクスと意味 第1巻』 くろしお出版
- 山田 進 (1981) 「機能語の意味の比較」『日英語比較講座 第3巻 意味と語彙』 国広哲弥編 大修館